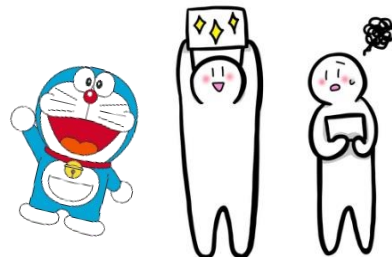


## 止まり木



## 劣等感を吹き飛ばせ！



今日の全校集会でお話した内容をご紹介します。

いよいよ、30日は文化発表会、合唱コンクールとなりました。

今年はどんな作品が展示されるのか、またどんな合唱を聞かせるのか本当に楽しみです。中には歌を歌うのが苦手な人もいるかもしれません。体育大会の時には走るのが苦手な人もいたと思います。勉強が苦手、絵をかくのが苦手などのようにみんなは、自分は他の人と比べてできないことがあるとか、ダメなところがあるとか思ったことがあるでしょうか。きっとみんなにもあると思います。もちろん校長先生にもあります。このように感じることを**劣等感**と言います。劣等感とは、実は誰もが持っています。劣等感を持っていない人はほとんどいません。ですから、もしかしたらみんなの中には、そういう劣等感から悲しくなったり、元気をなくしてしまったり、頑張ろうとする気持ちが小さくなってしまったりしている人がいるかもしれません。でも実は、この**劣等感があるから、人は頑張ることができる**のです。

ドラえもんの声が一番初めに担当した「大山のぶ代」さんという人のお話をします。

子どもから大人までたくさんの人に愛されているドラえもんの声を担当した大山のぶ代さん。実は大山さん、その個性的な「声」がコンプレックス、つまり自分ではすごく嫌だったそうです。「声がおかしいってみんなが笑うの・・・」「ヒソヒソみんながわたしを見て笑っている」中学生になった時、同級生から「お前の声はおかしい」と言われてとても思い悩んでいました。自分の声が嫌だな、しゃべるのが恥ずかしいなと思っている時に、大山のぶ代さんのお母さんにこう言われます。

「あのね。目でも、手でも、足でも、そこが弱いと思って、**弱いからといってかばってばかりいたら、ますます弱くなっちゃう**のよ。弱いと思ったら、そこをドンドン使いなさい。声が悪いからって、黙ってばかりいたら、しまいには声も出なくなっちゃうわよ。あなたらしくもない。明日からドンドン声を出すように、何か声を出すようなクラブへ入りなさい。そこで声をたくさん出して、いくらかでも人様が聞き取りやすい声の出し方、お話の仕方を覚えなさい。」と。

お母さんの励ましもあって、それから、中学の3年間は放送部に所属しました。最初はバカにする人もいたけれど、自分で自分の声を「この声でいいんだ」と思えるようになったそうです。大山さんは、過去を振り返って、「**他人がどう思うかではなく、これはわたしにしかない個性なんだ**」と気づけたことで、自信が持て、劣等感を克服でき、そのことが、将来的にみんなから愛される「ドラえもん」の声を担当する道につながったと話しています。

はじめに話したように、劣等感というのは誰にでもあります。

みんなも、「自分は他の人に比べてここがダメだな」「ここが他の人のようにこうだったらいいのにな」と思って、少し悲しい思いをしたり、やる気がなくなったりするかもしれません。しかし、大山のぶ代さんのように、上手いかなくても、できないことがあっても、他人と比べることなく、自分のことをダメだなんて思わず、もっと自分を信じて、くじけずに、いろいろなことをコツコツ積み重ねていてもらいたいと思います。

さあ！合唱コンクールです。歌うのが苦手な人も声を出してどんどん歌いましょう。

素晴らしいハーモニーを聴かせてくれることを期待しています。がんばって！！